

ワクチンを接種した豚の安全性について (流通・販売事業者用)

三重県

ワクチンの安全性について

- 1) ワクチンを接種した豚は、2~3週間程度で抗体(免疫)を獲得し、ワクチン成分(ウイルス)はその過程で分解・排出されると考えられています。なお、抗体は、豚の体内で作られるため無害です。
- 2) また、ワクチン成分は開発過程で無害化されており、肉などの可食部位で増殖することはありません。
このため、豚肉にワクチン成分が残ることはありません。
- 3) このワクチンは安全なため、休薬期間は設定されていませんが、厚生労働省では全てのワクチンに注射後20日間の出荷自粛を求めており、国の指示に基づき県が指導しています。

出典 動衛研研究報告、ハノーバー獣医科大学報告



豚熱(CSF)の基礎知識

1 豚肉の安全性について

と畜場へ出荷された豚は、法律に基づき、検査員が全頭異常や疾病がないか検査しており、この検査に合格した健康な豚の肉だけが市場に流通することになっています。このため、豚熱に感染した豚肉が市場に出回ることはありません。

出典 と畜場法

2 人への安全性について

人の体内に豚熱ウイルスが入っても、分子の構造上、人の細胞膜に侵入できないため、増殖することなく体外へ排出されます。万が一、豚熱に感染した豚の肉等を人が食べても人体に影響はありません。豚熱は、人に感染することはありません。

※世界的な人獣共通感染症早期警告システムであるGLEWSでは、豚熱は人に感染しない病気として区分されており、人への感染事例もありません。

出典 食品安全委員会、OIE、GLEWS(FAO、OIE、WHOのグローバル早期警告システム)



【問い合わせ先】 三重県農林水産部 家畜防疫対策課

TEL : 059-224-2027 FAX 059-223-1120

住所 : 〒514-8570 三重県津市広明町13番地



出典

動物衛生研究部研究報告第119号1-9 (平成25年2月)

日本における豚コレラの撲滅

≪抜粋≫ p4~5 生ワクチンの開発

豚コレラワクチンGPE株は、死亡、症状、発熱、白血球減少、ウイルス血症 全てが陰性となり、弱毒化が最も進んでいることが明らかとなった。

≪抜粋≫ p5 生ワクチンの開発

安全性は、①豚体内での増殖は扁桃とリンパ節に限局し、同居感染はまれである。

Results of a vaccination / challenge study with Pocilis CSF Live, a "GPE negative" based vaccine against Classical swine fever virus(CSFV) (ハノーバー獣医科大学報告)

≪抜粋≫ At no time of the experiment - neither post vaccination nor post infection - it was possible to isolate viable CSF virus from the vaccinated animals.

(試験中のいずれの時点でもワクチン接種動物から生存ウイルスは分離できなかった。)

ワクチン接種豚の出荷

と畜場法(昭和28年法律第114号)では、ワクチン等の生物学的製剤を注射され著しい反応を呈している家畜のと殺・解体の禁止等が定められていることから、厚生労働省は、生物学的製剤を注射して20日以内の獣畜のと畜申請等を行わないよう指導している(昭和47年6月20日付け環乳第52号厚生省環境衛生局乳肉衛生課長通知)

(獣畜のとさつ又は解体の検査)

第十四条

6 前各項の規定による検査は、次に掲げるものの有無について行うものとする。

一 家畜伝染病予防法(昭和二十六年法律第百六十六号)第二条第一項に規定する家畜伝染病及び同法第四条第一項に規定する届出伝染病

と畜場における検査項目等を定めた国の通知により

≪抜粋≫ 一の(四)注射反応とは、血清、予防液及び診断液の注射により発熱等の著しい反応を呈するものに限られるので生体時において発見されるものであるが、生物学的製剤を注射して二〇日以内の獣畜の検査申請は受付ないよう又は検査申請を行わないようと畜場関係者又は関係業者団体を通じて指導されたいこと。

「豚コレラ経口生ワクチンを摂取したいのししに由来する食品の安全性に関する食品健康影響評価 2019年3月食品安全委員会動物用医薬品専門調査会」

≪抜粋≫ p6 III.安全性に係る知見の概要

1. 人に対する安全性
2. 主剤

豚コレラウイルスは、フラビウイルス科ペスチウイルス属に分類される。本ウイルスは豚及びいのししを自然宿主とし、ヒトに対する病原性はなく、人獣共通感染症とみなされていない。

OIE Chapter2.8.3. Classical Swine Fever(hog cholera).adopted in May 2014

≪抜粋≫ 【There is no known risk of human infection with CSF virus.】

(CSFウイルスによる人への感染は知られていない)

第13章 9 フラビウイルス、獣医微生物学 第4版

≪抜粋≫ ペスチウイルスは接触感染によって伝播する。人には感染しない。

WHO Global Early Warning System for Major Animal Disease,including Zoonoses

≪抜粋≫ 【CSFはNon zoonoticに分類(Annex3参照)】

Non zoonotic→人獣共通感染症に分類されない

Annex 3: List of diseases of common interest

Non zoonotic

- African Swine Fever (ASF)
- Classical Swine Fever (CSF)
- Contagious Bovine Pleuropneumonia (CBPP)*
- Foot and Mouth Disease (FMD)*
- Peste des Petits Ruminants (PPR)
- Rinderpest ñ Stomatitis/Enteritis

Zoonotic

- Anthrax
- Bovine Spongiform Encephalopathy (BSE)
- Brucellosis (B. melitensis)
- Crimean Congo Hemorrhagic Fever
- Ebola Virus
- Food borne diseases
- Highly Pathogenic Avian Influenza (HPAI)
- Japanese Encephalitis
- Marburg Hemorrhagic Fever
- New World Screwworm
- Nipah Virus
- Old World Screwworm
- Q Fever
- Rabies
- Rift Valley Fever* (RVF)
- Sheep Pox*/Goat Pox
- Tularemia
- Venezuelan Equine Encephalomyelitis
- West Nile Virus